

[第三者コメント]

村田製作所グループ 「CSR Report 2009」を読んで



神戸大学大学院 経営学研究科教授

國部 克彦氏

進化したCSRへの取り組み

ムラタのCSR経営は着実に進化しています。2008年度は、社長が委員長であるCSR統括委員会の設置、CSR憲章の制定などに加え、ガバナンス、環境、社会・地域貢献を含む委員会を統括する体制も整備されました。また、業務目標に落とし込まれる社会性目標の設定や、社会・地域貢献活動基本方針をはじめとする各種の方針も定められ、社員にとっても何をすれば良いのかが一層明確にされています。このような取り組みは、ムラタのCSR活動の進化を示しており、高く評価できます。今後は、ムラタが考える重要性（マテリアリティ）に加え、より広くステークホルダーの意見を聞くことにより、社会が求める重要性を分析することや、可能で有効なところからの社会性目標の定量化が期待されます。

ムラタの最高価値観としてのCSとES

トップメッセージにも示されているように、ムラタの最高価値観はCS（お客様満足）とES（従業員のやりがいと成長）です。「特集」(p.08-12) や「お客様への責任と行動」(p.17-19) および「従業員への責任と行動」(p.20-23) の紙面の充実にも、この価値観が強く反映され、良く理解できます。また、ES調査や労働災害のない職場づくりを目指した労働安全衛生マネジメントシステムの導入への取り組みを開始されることも評価できます。今後は、CSやESのパフォーマンスを評価する仕組みの確立や、それらの成果を開示する取組みが期待されます。

意欲的な地球温暖化への対応へ

現在ムラタでは、CO₂の排出量を原単位で目標設定されています。1990年度比35%減という高い目標はすでに達成されていますが、最近では総量削減が社会的な要請になりつつあります。トップメッセージには、CO₂排出量の「見える化」を進め全社を挙げてCO₂削減に取り組むという強い決意が示されています。今後は、長期的かつ積極的な総量削減目標を設定し、業界をリードしてムラタ全体でCO₂削減に取り組まれることを期待します。

グローバル企業としてのCSR

ムラタは、海外売上高が78%にも達し、グローバル化がより進んでいます。2009年度には中国の工場と日本の環境マネジメントシステムを統合することを打ち出されていますが、ムラタにはこのようなグローバルな視点でのCSRへの取り組みがますます重要になります。国内に加え世界中のステークホルダーのニーズを把握する仕組みと実践が今後は重要になると思われます。ムラタのCSRのさらなるステップアップを心より期待します。